

【松川浦、岩子の地質】

塩釜神社と長命寺の間の小高い丘の道を歩いていると、不思議な光景が現れる。道脇の赤土の斜面に黒い筋が入っている。断層とは違う筋のようだ。どうしてこのような筋が入ったのか教えてほしいものだ。

岩子・和田などの丘陵地帯や松川浦の島々の地質は、凝灰岩や砂岩でできているそうです。凝灰岩や砂岩は柔らかいので、かつては屋敷地の裏側の岩壁に穴を掘り、物置や風呂や便所に利用していたそうです。

この穴のことを岩穴（イワナ）と発音するそうです。イワアナではないのですね。また、塩田で塩を採っていた明治時代末ごろまでは塩分の濃い鹹水（かんすい）を貯めるのにも使っていたといえます。

凝灰岩（ぎょうかいがん）は、火山から噴出された火山灰が地上や水中に堆積してできた岩石で、生成条件から堆積岩（火山砕屑岩）に分類されます。砂岩は砂粒が固結してつくられた堆積岩で、もっとも一般的な岩石だそうです。主な構成鉱物は石英、長石、白雲母などで砂粒（0.1～2mm）が固結した堆積岩をいうそうです。



（岩の亀裂）



（岩穴）

【長命寺】

長命寺の歴史は古く、元亨（げんこう）3年（1323）に相馬重胤（しげたね）と共に下総国から行方郡太田（南相馬市原町区）へ移ってきたときに一緒にきたと伝わっています。

真言宗豊山派の寺院で、本尊は大聖不動明王だそうです。元禄8年（1695）には現在の八幡小学校付近にあり、嘉永年間（1848～1854）に坪田字涼ヶ岡に移り、さらに、明治5年（1872）に岩子の現在地（龍泉寺跡）に移ったそうです。

境内には松川浦十二景の紅葉丘の歌碑があります。

・長命寺の山門

山門は中村城にあった不開（あかず）の門を移築したもので、2階建てで高さが15メートルあります。相馬市有形文化財に指定（昭和60年5月7日）されていますよ。

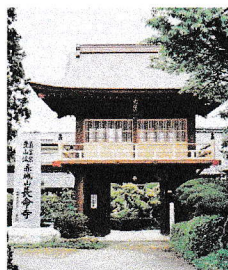
・大ツツジ

本堂前にある大ツツジは推定樹齢約300年。このツツジは明治4年（1871）4月20日に植樹したと伝えられています。種名は、しゃくなげ科の琉球ツツジだそうです。

5月中旬頃、満開（色は薄桃色）となります。1株でこれだけ大きいものは全国的にも珍しいといわれています。市の天然記念物に指定（昭和56年3月5日）されています。

・大般若経 600巻

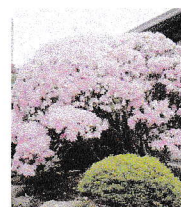
長命寺には正保（しょうほう）2年（1645）版の由緒ある大般若経（大般若波羅蜜多経のことで、通称は大般若経、般若経といえます。）600巻があります。大般若経600巻は大変高価なもので、どの寺院でも持っていたと



（長命寺山門）



（歌碑8：紅葉岡）



（大ツツジ）